

主 題：教会のあるべき姿 = 成長⑦
聖書箇所：エペソ人への手紙 4章13節

テーマ：聖書の教える教会のあるべき姿とは？

今朝、皆さんとともに見ていきたいみことばはエペソ4：13です。

きょうも私たちはパウロが記したこのエペソのみことばから教会のあるべき姿とは一体何か、主に喜ばれる教会として私たちが成長していくために神様が何を求めておられるのかを続けて考えていきたいと思えます。

きょうはまず皆さんに一つの質問があります。皆さんは取扱説明書というものは好きでしょうか？例えば私たちが家具や電化製品などを買えば必ず一緒についてくるあれです。皆さんは普段その説明書をどうします？一緒の箱に入っているから、とりあえず一度は開いてみるかもしれません。でもそこには文字がたくさん記されていて、また書かれている内容がちんぷんかんぷんでわからないからそのまま閉じてしまうかもしれません。もちろん中には、その説明書を一からじっくりと読んで、しっかりと手順に従おうとする人もいますが、多くの方が、特に男性はそんな説明書を読まずに、いやそもそも読もうともせずにとりあえずやってみようとしたりしないでしょうか？そして自分の思いのままにやり始めてから、途中で自分は一体何をしているのだろうと気づいたりするのです。こうして自分のプライドが一旦砕かれてから渋々説明書を見たりします。皆さんはそんな経験はないですか？多くの人にとって、この取扱説明書というものは複雑で読むのも面倒くさく感じてしまうものですが、なかったら困ります。私たちが何かを組み立てたり、作ろうとする時、もちろん必要な道具や材料が揃っていることも大切ですが、そういった一つ一つのものごがどのような目的で使われていくのか、どのような手順でそれらが組み合わされていくのかを知っていなければいけませんし、もっと言えば、どのようなものを作ろうとしているのか、その完成形の姿を把握していなければいけないのです。何かを作っている時に、もし私たちが完成図をいっさい知らなかったとすれば失敗したり、でき上がったと思ったものが本来あるべき姿とは異なるものになってしまったりします。だからこそ、手順や完成図を教えてくれる説明書は必ず買ったものと一緒についてくるし、好き嫌いはさて置き、私たちにとってそれは必要不可欠なものになるのです。

そして、これは私たちがキリストのからだである教会を建て上げようとする時も同じことです。これまでの流れを思い返してみてください。まず、7節でキリストは恵みによって救われた者ひとりひとりに霊的賜物を与えてくださったことを見ました。それぞれがそれぞれの形で主と兄弟姉妹とに仕えていくことができるようになったのです。だれひとりとしてすべての賜物を持っている人もいませんでしたし、まただれかと全く同じ働きをする人もいませんでした。みなそれぞれに特別な賜物、特別な役割を持っていて、私たちは与えられた賜物を用いて互いに仕え合っていく必要がありました。同時に主は教会に対して賜物として、霊的リーダーと言われる人物たちも与えられていました。11節で使徒や預言者たちを与えて教会の基盤を築き、彼らが役割を終えていなくなってしまう後は福音やみことばを伝え、教える伝道者や牧師また教師といった人物たちをお立てになりました。

先週、私たちは12節で教会にそういったリーダーたちが与えられた目的について見ました。それはそのリーダーたちがみことばを語り、その働きを通して私たちひとりひとりが奉仕にふさわしい者へと整えられていくためでした。教会にリーダーたちが与えられているのは、何も彼らや教会の特定の少数の人たちだけが教会の働きのすべてをするのではなかったのです。教会には働きにいっさい携わらない、ただ見ているだけの傍観者はいませんでした。それぞれ主から賜物が与えられた私たちが自分勝

手な方法や考えで仕えていくのではなくて、主の教えに忠実に従って働きをなしていくことができるようにと教会にはみことばを教える霊的リーダーが与えられていました。みことばと祈りの働きに忠実な霊的リーダーたちが、またみことばを教えられ、その知恵によって整えられた者たちが主のためにも働いていく時、教会は、キリストのからだは建て上げられていくのです。これが教会が成長して行くために、キリストが持っておられた設計図でした。これが私たちに与えられた主の教会をどのようにして建て上げていくべきなのかが記されていた主の教会の取扱説明書だったのです。

11-12節を見た時に、改めて主のご計画はすばらしいと思いませんでした？すべてが主によって定められていたのです。主は教会を建て上げていくことができるように道具としてそれぞれに賜物を与えて、ひとりひとりが十分に働いていくことができるように霊的リーダーたちを与え、そしてそれらが組み合わせられることによって、教会が主の望まれる形で作り上げられていくことを見ました。しかし、これが取扱説明書のすべてだったとしたら、何かが足りないですよ？私たちが何かを作ろうとする時に、道具や材料がそろっていること、どのような手順でそれらが組み合わせられていくのかを知っていること、それと同じぐらいどのようなものを作ろうとしているのか、その完成形の姿を把握している必要があります。ここまでこんなにすばらしいご計画を持っていた主が、説明書の中に完成図を含めていないと思います？もちろんそんなことはありません。主はご自身の教会が建て上げられていけば、成長していけば、どのような姿になっていくのか、その完成図さえもみことばの中に記してくれていました。

○賜物を与えられた教会が目指すべき目標：成長した教会に見られる三つの姿

そして、きょう私たちが見るこの13節には、私たちがキリストのからだを建て上げていけば、教会がどのような姿に変わっていくのか、その完成した姿を見ることができます。特にここでは、私たちみなが目標としていくべき成長した教会に見られる三つの姿を見ることができます。

私たちはこれからその内容を見て行くのですが、その前にこのことをよく覚えておいてください。今皆さんには、それぞれ主からさまざまな奉仕の働きが与えられていることだと思います。持っていない人はいないはずですが、それは教会学校や集会といった場所でみことばを教えることかもしれませんし、霊的に落ち込んでいる人たちを励ますことかもしれませんし、祈ることかもしれません。伝道することや聖書に基づいて子育てをしていくこともそうかもしれません。たとえそれが主のためになされるどのような奉仕であったとしても、私たちはこの13節に見る教会の姿に到達できるようにと互いに仕え合っているのだということです。私たちがしていることすべてがこの13節に記されているゴールのために、この教会の姿になっていくためにしていることだということです。だからそれぞれみな働いて、みな一致することが大切になります。だからこそ私たちは、いま一度この13節に照らし合わせて自分の歩みをよく吟味してみてください。今、主が持っておられるこの設計図に則った歩みを自分は何しているのだろうか、正しい目標に向かって自分は教会を建て上げようとしているのだろうか。いやそもそも主の定めたその完成図を自分は正しく把握しているのだろうか。何度も言っていることですが、主に喜ばれる教会として、私たちが教会を建て上げていこうとするのであれば、私たちはこの主の設計図に則って、主が描いておられる完成形の姿を目指してすべてのことをしていくことです。

では、その完成図とは一体何なのか、具体的にみことばから見ていきましょう。文脈を押さえるために11-13節をお読みします。

エペソ4：11-13

「:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」

1. 一致が見られる教会 13 a 節

さて、成長した教会に見られる三つの姿の一つ目は一致が見られる教会です。パウロは13節を「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、」と始めていました。霊的リーダーがみことばを語り、教え、ひとりひとりが主のために働いていく、そのような教会は教会全体が成長し、ますます一つのもの、一致したものに変わっていくということです。私たちが一致するということが主の持つておられた教会の完成図の一つでした。

ここでまず皆さんに少し気づいてほしいことがあります。パウロは一体だれがこの目標に到達すると言っていました？パウロは「私たちがみな」と言ったのです。つまり教会というのはある一部の人のみ、教会のリーダーだけが成長してこの目標に到達するのではなくて、すべての者が成長してこの目標へとたどり着くのだということです。それはパウロも例外ではなかったからこそ、彼は「私たちがみな」と言いました。だからこそ何度も何度も言っていることですが、私たちがキリストの教会を建て上げようとするのであれば、成長していこうとするのであれば、ほかの兄弟姉妹たちの助けが、働きが絶対に必要不可欠になるのです。私たちはひとりで信仰生活を歩んでいくために、生きていくために主によって召されたものではありません。みことばを学んで整えられた私たちがみなで同じ目標を目指して互いに仕え合って教会の完成を追い求めていくことです。

パウロはここで再び「一致」について取り上げていました。以前4：1-6を見た時に、パウロは召された者の集まりである教会にとって、「一致」がどれほど大切なものを教えていました。彼は兄弟たち、救われたあなたたちはみんな一つのからだ、一つの御霊、一つの望み、一つの主、一つの信仰、一つのバプテスマ、一つの父なる神を持った神の家族なのだ、同じ一つの土台に今立っているのだ、だから召された者にふさわしく歩み、「一致」を熱心に保っていきなさいと。間違いなく教会にとって「一致」が重要なものであることをパウロはよくわかっていました。でもこれは何もパウロだけが「一致」が重要だと考えていたわけではありません。私たちがみことばを見る時に、繰り返しこのことが教えられています。例えば以前も一度見ましたが、ご自分が十字架に架かる前に、弟子たちとともに最後の晩餐を過ごした後、イエス様が祈られたことがヨハネ17：20-21に書いてありました。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお祈りします。それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」と。確かに主はこの時弟子たちのことを思って彼らのために祈っていました。なぜなら彼らは最後の晩餐の時まで自分たちの間でだれが一番偉いのかと言い争っていたからです。残念ながら彼らは一つのものではありませんでした。だからこそ主は彼らに対して彼らがへりくだって互いに足を洗い合っていくことを求めただけでなく、祈りを通して彼らが一致していくようにと願われていたのです。それに加えて、イエス様は「彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお祈りします」とも祈られていました。言い換えれば、イエス様の弟子たちが語り伝えていく福音を信じて救われたすべての人々のために、主のために生きる私たちひとりひとりのためにもここで主は祈ってくださったのです。私たちがみな一つとなること、主にあって一致すること、これが主のみこころだったのです。

また、これは今回、自分自身がみことばを学んでいて考えさせられたことですが、さまざまな問題を抱えていたコリントの教会の姿を思い浮かべてみてください。コリントの教会には不品行の問題があり、結婚に関する問題があり、偶像礼拝に関する問題があり、霊的賜物や復活に関する問題もありました。彼らは数々の深刻な問題を教会として抱えていました。そんな教会にパウロは手紙を書き送るのですが、彼がまずどの問題について触れたか覚えていますか？いや、もし皆さんがコリントの教会に対して手紙を送るとしたら、まずどの問題について触れますか？恐らくあらゆる問題の中で最も大切なものについて最初に触れますよね、パウロがコリントの教会に対して最初に指摘したものは教会の中に起こっていた分裂、不一致のことでした。彼はいつものように挨拶を始めて、挨拶が終わった後すぐにIコ

リント1：10で「さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みなが一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。」と語り始めます。いろいろな問題を抱えていたコリントの兄弟たちにパウロがまず語ったことは、仲間割れしないで一致していなさいということでした。教会が一致するということは、パウロにとってだけではなく教会のかしらであるキリストにとっても重要なものであったということを見ることが出来ます。だからこそ整えられた私たちが互いに仕え合うことを通して一致が見られる教会へと変わっていくこと、これが私たちが持っている目標だということです。

さて、ここまで見てきて、私たちにあって一致というものが大切なものだということがよくわかったと思います。でも実際一致ということを考えて時に、恐らく多くの人がそうありたいと願いながらも一致していくことに難しさを覚えたりするのではないのでしょうか？私たちは普段いろいろな人と歩みをとみにします。そこにはさまざまな違いがあるからこそ、すれ違いや争い、不一致といったものが絶えず生まれてきます。それぞれが自分の思いどおりにしたいとか、自分のやり方こそが正しいと考えて、価値観や考え方を押しつけ合えば、そこに一致などというものは絶対に生まれません。では私たちが一致していくために何が必要になるのでしょうか？少なくとも言えることは、私たちが同じ考え、同じ心を持つことです。先ほど見たコリントの中でも、パウロは「どうか、みな一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。」と言っていました。私たちが一致するためには、「同じ心」、もっと言えばみことばの真理、同じキリストを信じるその土台の上に立っている必要があるということです。だからこそパウロはエペソ4：13を記した時に、単に「ついに、私たちがみな」一致に達しとは言わずに、「私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し」と述べたのです。教会というのは、「信仰」と「神の御子に関する知識」という、この土台に立って一致し、ますます成長していくのだと。

では、ここで用いられている「信仰」と「神の御子に関する知識」とは何かというと、まずここで言われている「信仰」というのは、私たちそれぞれが持っている個人的な信仰のことを指しているのではありません。これは聖書が教えている基本的な教理や福音を指しています。つまり私たちが一致して行くためには、まずみことばが教えている同じ真理、同じ福音を信じることに同意しなくてはならないということです。逆に言えば、異なる教理を信じる者とは一致することは絶対にできないということです。でもこれはある意味当たり前のことですよね？なぜならもし教会の中に、聖書はすべてにおいて十分だと信じる人と、聖書には足りないところがあると信じる人がいたらどうなります？またもし救いは恵みによって、信仰によって、キリストによってのみ与えられると信じる人と、救いは私たちの行いも必要だと信じる人がいたとしたらどうなります？私たちに最も根本的な部分で違いがあるのであれば、同じ方向を向いていくことは絶対にできません。そこには一致というものは生まれてきません。みことばのすべての面、事細かい神学に至るまで同じである必要はないですが、教会が一致していこうとするのであれば、最も基本的な教理において、福音においては必ず同意していなければいけないということです。

また「神の御子に関する知識」というのは、単に知識としてイエス・キリストを知っているということを行っているのではありません。これはこの方と個人的で親しい関係を築いていることを表しています。パウロも自分自身がこの主を個人的に知っているということのすばらしさをピリピ3：7-8で「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。」と表現していました。主を個人的に知っていたパウロは、この方を心の底から愛していました。そしてこの方を知っているということが余りにもすばらしいものであるがゆえに、それと比べれば、これまで自分が価

値を置いてきたすべてのものが全く無価値でガラクタのようになってしまったのです。主を知っていることが何よりもすばらしいのだと。皆さん自身もこのパウロと同じように、主を初めて知った時の喜びを覚えているはずです。皆さんもそのすばらしさを今知っているはずです。生まれながらに罪と罪過の中に死に、創造主である神様を無視して自分のために生きていた私たちは、ただ滅びへと真っ直ぐに進んで行くしかありませんでした。私たちはみな自分の罪に対して下される主の御怒りのさばきをただ待つしかない、そんな哀れで愚かな存在として生きていたのです。私たちにはいっさい希望なんてものはありませんでした。しかしそんな希望なく暗闇をさまよっていた私たちに対して、主が光を照らしてくださったのです。本来、栄光のみを受けるに値する主イエス・キリストがへりくだって人としてこの地上に来られて、十字架にかかってその血を流し、私たちの代わりに罪の罰を受けてくださいました。私たちが過去どのようなことをしていたとか、私たちが主の前に何かよいことをしたとか、そういったことではなく、ただ主の憐れみによって、主の恵みによって私たちは救われたのです。そして私たちのために死んでくださったこの主は、ご自分が約束されていたとおり、勝利者として三日目に墓からよみがえり、今なお神の右の座について、王として、主権者としてすべてのことを支配されているのです。

私たちがこの方を自分の神様、自分の救い主として知った時、この方と個人的な関係で結ばれた時、私たちの心は間違いなく、感謝と喜びで満ちあふれていたはずです。主は自分のためにこんなすばらしいことをなしてくださったのだ、こんな偉大な方を自分の主として、王として、しかも父と呼ぶことができるのだと。だからこそこの主を知っている者は、この方をもっともっと知りたい、もっともっと愛していきたいという願いを日に日に強めて持っているのです。教会というのは、この同じ思いを持った、この同じ願いを持った人たちが集まって互いに仕え合っていくのです。同じみことばの真理や福音を信じて、同じキリストを愛する者たちがともにみことばを学んでキリストのからだを建て上げようとしていくのです。皆さん想像してください。そのような人たちが集まって互いに仕え合っていたら、その教会はどうなってきます？その教会には一致が見られるようになるのです。だからこそ私たちの責任はいつもみことばを学んで、この真理に立って歩み続けることです。同じキリストを深く知って、この方の姿にならって歩むことができるように、そのことを互いの間で教え合うのです。その同じ主を信じて歩いていくように励まし合うのです。同じ考えを、同じ心を持つことです。「信仰」と「神の御子に関する知識」の一致が見られる教会、これこそが私たちが目標としていくべき教会の完成した姿だということなのです。

2. 信仰の成熟が見られる教会 13b節

続けて成長した教会に見られる二つ目の姿は信仰の成熟が見られる教会です。パウロはこのように13節を続けていました。「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全にとおとなになって」、教会がみことばによって整えられた者たちの働きによって建て上げられ、信仰とキリストに関する知識においてますます人々が精通していけば、私たちは信仰において成熟したおとなの姿へと変わっていきます。私たちが成熟した信仰の大人になっていくことも主の持っておられた完成図の一つでした。

ここで「完全に」ということばが使われていますけれども、これは文字どおり「完璧」とか「汚れがない」といった意味で聖書の中で用いられますが、同時に「成熟する」とか「子どもが成長して大人になる」という意味でも用いられたりします。例えばIコリント14：20では「兄弟たち。物の考え方において子どもであってはなりません。悪事においては幼子でありなさい。しかし考え方においてはおとなになりなさい。」と、その様子がわかりやすく記されています。ですから13節でパウロが「完全にとおとなになって」と言ったのは、教会はいつまでも子どものままでいるのではなくて、みことばを学んで信仰において成熟した大人へと変わっていきなさいということを伝えるためでした。それが教会が目指して行く目標だったのです。

そして、聖書は繰り返し私たちが成熟した者へと変わっていくことの大切さを教えてくれています。私たちはずっと子どものままでいてはいけないのだ、大人になって成熟していきなさいと。ヘブルの著者もいつまでたっても成長しないクリスチャンたちに対して、このような厳しいことばを投げかけていました。ヘブル5：11-14で「この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。」と。ここで勘違いしてほしくないのは、信仰の成長というのにかかる時間はそれぞれ違うということです。早く成長する人もいれば遅く成長する人もいます。でも確実に言えることは、救われている人は必ず成長していくということです。救われた者の中で、いつまでも同じ状態の中でとどまっていたら、子どものままでいてはいけないということです。

●信仰において成熟するとは具体的にどういうことでしょうか？

この考え方については私たちがよく知っていることだと思います。私たちは信仰において子どもから大人へと変わっていくのですが、ではそもそもこれは具体的にどうなっていくことを意味しているのでしょうか？もちろんいろいろなことが言えますけれども、少なくとも三つのことを挙げることができます。

1) みことばの真理に堅く立つ者へと変えられること

一つ目に、信仰において成熟するというのは、みことばの真理に堅く立つ者へと変えられるということです。詳しいことはまた来週見ますけれども、きょうのテキスト13節の続きの14節に「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく」とあります。今から子どものことを幾つか挙げますけれども、別に子どもを悪く言おうとしているわけではありません。そのことは覚えておいてください。皆さんもよく知ってのとおり、幼い子どもというのは何が正しくて何が間違っているのかを判断することはまだできません。だからこそ周りに潜んでいるいろいろな危険に出くわしてしまったり、誘惑に惑わされてしまうことがあります。また、赤ちゃんに至っては、自分が何を食べていいのかすらわからないからこそ、床に落ちているものを食べて、お母さんが「出しなさい」と怒ったりするのです。何を食べていいのかわからないから何でも口の中に入れようとするのです。赤ちゃんは母親からミルクを飲ませてもらわない限りは生きていくことはできません。同じように救われたばかりの私たちは、みことばの乳しか飲むことができませんでした。またさまざまな誘惑に負けたり、間違った教えに容易に揺り動かされてしまうそんな者だったのです。しかし、そんな私たちがみことばを学んで成熟した大人になれば、みことばの真理に基づいて物事を正しく判断することができるようになっていくのです。この世のアドバイスやこの世の考え方に心を奪われるのではなくて、みことばにのみ信頼を置いて生きていく、みことばにのみ確信を置いて生きていく者が成熟した者だということです。

2) みことばによって自分を制することができる者へと変えられること

また二つ目に言えることは、信仰において成熟するというのはみことばによって自分を制することができる者へと変えられていくということです。子どもは自分の感情をすぐに表に出します。欲しいものが与えられなければ、それをすぐに手に入れたがるし、手に入れられなかったら怒って不機嫌になったり、泣き出したりします。自分の感情を抑えたり、我慢することをまだ知らないのです。ですから成熟して大人になっていく私たちは、確かに最初はずぐに感情的に反応するような者だったかもしれませんが、みことばを心に蓄えることによって自分の気持ちを自制することができる者へと変えられていくということです。箴言も自分の心を制すること、自制の大切さをこのように教えています。箴言2

5 : 28 「自分の心を制することができない人は、城壁のない、打ちこわされた町のようだ。」と。成熟した者はそのようなことができる者へと変えられていくと。

3) どんな相手に対しても愛を持って接することができる者へと変えられること

そして最後三つ目に、信仰において成熟するというのはどんな相手に対しても愛を持って接することができる者へと変えられるということです。子どもは素直だからこそ自分の気の合う友達と遊んだりしても、自分を傷つけてくるような嫌な友達とは一緒にいようとはしません。またたとえ、一緒に遊んでいたとしても自分の物を取られたら、それは僕のだから、それは私のだからと言って怒ってけんかになったりします。どんな態度を示すかは相手やその状況に左右されます。成熟した大人になっていく私たちは自分と気の合う人、自分のことを好いてくれるような人にだけ愛を示し、自分と考えが合わないような人とは距離を取ったり冷たくするようなそんな者ではないということです。私たちの示す愛は相手によって、また状況によって左右されるものであってはいけないということです。なぜかというと、私たちは主の愛を知ったからです。この愛を知っている者は自分の思いや気持ちを優先させるのではなくて、主を愛するがゆえにこの方の戒めを守ろうとします。イエス様もヨハネ14 : 15で「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」と言われました。そしてその後、戒めについて主はこう続けています。同じヨハネ15 : 12で「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」と。大人へと成長した者は、この主と同じ愛でどんな相手であろうとも喜んで愛を示す者になっていくのだということです。

信仰において成熟していくということが、みことばの真理に堅く立つ者にならなくていくこと、みことばによって自分を制する者へと変わっていくこと、どんな相手に対しても愛を持って接することができる者へと変わっていくことだとすれば、今の私たちの歩みはこの姿を反映したものでしょうか？今もまだ子どもとして歩んでいるのでしょうか？それとも確かに失敗はあるけれども、少しずつ大人へと変わっていきこうとしているのでしょうか？皆さん、いつまでたってもみことばよりもこの世の教えやアドバイスに心が奪われたりしていないのでしょうか？何か問題が起きれば、すぐに感情的になって相手を攻撃したり、思いどおりにならないことがあれば不満を募らせて文句を言ったりする、そのような者ではないのでしょうか？また自分によくしてくれる人だけに愛を示して、自分と合わない人に対しては無関心を装ったり、関わろうとしない。そんなことをしていないのでしょうか？確実に言えることは、私たちはまだまだ信仰において成熟していかなければいけないところがたくさん残されているということです。だれひとりとして完全ではありません。私たちは教会としてそれぞれが自分の役割を担って見え合い、一緒になってこの目標を目指して歩いていくのです。私たちはみんなが一致して子どもから大人になっていきこうとするのです。だから私たちはお互いの間で教え合い、戒め合い、励まし合うのです。同じみことばの真理や福音を信じて、同じキリストを愛する者たちが一致して、ますますみことばに忠実に従っていきこうとするのであれば、その教会には信仰の成熟が見られるようになっていくのです。これこそが私たちが目標とするべき教会の完成した姿でした。

3. キリストの姿が見られる教会 13C節

そして最後、成長した教会に見られる三つ目の姿は、キリストの姿が見られる教会です。パウロは13節を「キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」と締めくくっていました。皆さん、少し想像してみてください。みことばの教える同じ真理や福音を信じ、同じキリストを愛する者たちが一致している教会、またそこに属するすべての者が満足することなく、みことばをもっともっと学びたいと願っていつも学び、それに従い、ますますキリストに似た成熟した者へと変わっていきこうとする、そんな教会の姿を人々が目の当たりにした時に、彼らはその教会のうちにどのようなものを見ます？キリストにあって一致しようとするような、キリストを愛していこうとするような、キリストに従っていきこう、みんなですべてをやっていきこうとするような教会、そこにはまさに私たちの愛する、私たちの模

範とするキリストの姿が見られるようになります。教会がみことばに従って成長し続ければ、教会の中にはキリストの満ち満ちたご性質が明らかにされていくということです。

私たちが今この地上に置かれている理由、生かされている理由はまさにこの目的のためです。私たちは単に個人としてだけでなく、教会としてキリストに似た者となる、その目標を目指してすべての働きをしています。パウロもそのような思いと願いを持って熱心に働いていました。コロサイ 1 : 28に「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」とあります。パウロは一生懸命キリストを宣べ伝えて、知恵を尽くしてあらゆる人を戒めたり、あらゆる人を教えていました。何のためでした？「それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるため」でした。彼はほかの兄弟たちのために、教会のために働いていたのです。

私たちも日々の生活を通して、キリストが歩まれたように歩みたいと願う者へと少しずつ変えられていきます。だれかが私たちの歩みを見る時に、そこには私たちの姿ではなくキリストの姿を見ることができるよう、そのような者にならなくていいと私たちは願って生きていくのです。そのために私たちはますます主にならなくていい、みことばを学んで信仰において成熟していくのです。ある人は自分のような愚かな者にはそんなふうにならなくていいことはできません、無理だと思うかもしれませんが。キリストに似た者になっていくのは私にとって難しいことです。失敗ばかりしてしまいますと。確かに私たちが変わろうとすれば変わろうとするほど、そこには大きな犠牲や難しさを伴うことは事実です。でも皆さん感謝なことに、みことばこのように言っていました。Ⅱコリント 3 : 18 を見てください。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちにならなくていいと願う者へと変わって行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」とあります。私たちは日々主とみことばに従って行きます。日々キリストに似た者になりたい、キリストを覚えて、この方をあかしする者へと変わって行こうとするのです。でもその力を与えてくれるのはだれだと言っていました？それは御霊なる主です。この方が私たちのうちに働いてくださるからこそ私たちは主と同じ姿へと、同じ形へと変えられていくのです。もちろんこの地上において主と完全に同じようになることはありません。でもキリストに似た者へと変えられていくこと、それが主に喜ばれることだということを知っている者たちは、たとえそれが多くの犠牲を伴うことであっても、喜んでそのことをなそうとするのです。

では、皆さんどうでしょう？私たちは今、ますますキリストに似た者へと変わっているのでしょうか？キリストが愛されたように愛を実践しようとする者へと変えられているのでしょうか？キリストが赦されたように互いを赦そうとする者へと変わっているのでしょうか？キリストが忍耐を示されたように、人々に忍耐を持って接しようとする者へと変わっているのでしょうか？キリストがへりくだられたように互いにへりくだって仕え合おうとする者へと変わっているのでしょうか？自分が救われた最初の時と今を比べてみてください。失敗はあります、でもキリストに似た者へと少しずつ変わってきているのでしょうか？もし皆さんの中に、救われた当初と自分は何も変わっていない、成長していないということを見て取れるのであれば、よく自分の信仰を考えることです。聖書は、本当に救われている者の信仰は必ず子どもから大人へと変わっていくと言っていました。それは御霊なる主がその人のうちに働いてくださるからです。主が働いてくださって私たちが変えられていく以上は、私たちは必ず子どもから大人へと変わって行きます。だからこそ子どものまんまにいるクリスチャンは存在しないのです。

またもしこの中に、この主をまだ個人的に知らないという方がおられるのであれば、どうかきょうこの主を知って帰ってください。みことばを通して見てきましたけれども、この方のうちにのみ本当のすばらしい喜びがあります。私たちがこの地上で味わうことのできない最もすばらしい喜びがあります。この主の前に自分の罪を悔い改めて、この方の救いをきょう受け入れて自分のものとしてください。

同じみことばの真理や福音を信じて同じキリストを愛する者たちが一致して、ますますみことばに忠実に従って成熟しようとするのであれば、その教会にはキリストの姿が見られるようになっていくのです。これこそが私たちが目標とするべき教会の完成した姿でした。

○まとめ

さて、今朝私たちは教会の建設者であるキリストの持つておられる取扱説明書を通して、私たちが目標とするべき成長した教会に見られる三つの姿を学ぶことができました。成長した教会は信仰と神の御子に関する知識の一致が見られ、信仰におけるますますの成熟が見られ、そして何よりもそれらを通して私たちの愛する主の姿がそのうちに見られるものでした。これがキリストが教会の成長に対して持つておられた完成図だったのです。そして、私たちはみな同じ一つの神の家族として、この教会の姿に到達できるように互いに仕え合っているということです。今皆さんがそれぞれの働きをされていますけれども、その働きのすべてはこの姿に、この完成図にたどり着くためになされていることだということです。主の計画はすごいと思いませんか？主は教会を建て上げていくことができるようにと、恵みによってそれぞれに賜物を与えてくださっただけでなく、ひとりひとりが十分に整えられた者として働いていくことができるように霊的リーダーを与えてくださっただけでなく、そういったすべてのものを通して私たちが主が望まれる教会を作り上げて行きなさいと、そういう完成図も私たちに教えてくれていました。だからこそ私たちの責任は、このキリストのからだを建て上げるその働きにおいて、それぞれに与えられた役割を担っていくことです。だれひとりとして私には何も役割がありません、責任がありませんという人はいません。そのようには主は召されていません。よく考えれば考えるほど、これはすばらしいことだと気づくことになると思います。なぜなら主に逆らって生きていた私たちが今もたくさんの失敗をしてしまう私たちが、このようなキリストの教会を建て上げていく設計図の中に組み込まれているということです。皆さんひとりひとりはその設計図の中であって、それぞれの役割が与えられ、それぞれの働きをなしていく者として変えられているのです。だとすれば私たちはそのことに感謝することです。この主のために互いに仕え合っていくことです。キリストの姿を反映する者として、日々みことばを学んで、そのみことばに従って成熟を目指していくことです。続けて、この主の設計図に従って、主に喜ばれる教会を建て上げ、この主が描いておられる完成形の姿へととともに歩んでいきましょう。